

平成24年度第1回長崎県観光審議会 会議結果

1. 日 時 平成24年11月19日(月) 14:00~16:30
2. 場 所 ホテルセントヒル長崎
3. 出席者 片岡会長、山口委員、高松委員、関川委員、香取委員、丸山委員、草野委員、道津委員、高田委員、植原委員、中野委員、松島委員、山本委員
4. 議 案
 - (1) 市町観光地づくり実施計画及び重点支援地区(分野)について(議案)
 - (2) 市町観光地づくり実施計画策定の取組み状況について(報告)
 - (3) 長崎県観光振興基本計画の実施状況(平成23年度分)について(報告)
 - (4) 平成24年度長崎県観光施策について(報告)ほか
5. 審議結果 南島原市及び雲仙市から提出された市町観光地づくり実施計画及び重点支援地区(分野)について、原案のとおり承認
6. 主な意見 別添のとおり

平成24年度 第1回長崎県観光審議会（主な意見）

項目	意見	事務局説明
1. 市町観光地づくり実施計画及び重点支援地区（分野）について（南島原市）		
	<p>2～3回の観光地づくり実施計画策定委員会の開催で、これだけ非常に詳細な計画を作成されているが、市役所内での共通した認識や情報の共有についてはどれ位までできているのか。また、3カ年でどれ位の予算を使い、南島原市全体の自主財源の中でどれ位のウェイトを占めるのか。</p>	<p>（南島原市） 今回の計画において3回の会議を開催したが、市と観光協会が日頃から連携を図っているため、充分中身を吸い上げやすく、多くの意見を聞きながら、農業や商工関係といった地域特性を活かした観光地づくりに取り組んできた。観光地づくりであるとともに、地域づくりという面も考えながら企画振興部を中心として進めている。 平成25～27年度の3カ年計画であるが、市単独事業、県21世紀まち補助や他から財源をもってくる事業も含まれている。できるだけ、よい財源を活用していきたいと考えている。</p>
	<p>特産物（農産物）、「有明海の再生」を観光資源としてはどうか。また、観光における島原鉄道とのタイアップはどうなっているのか。</p>	<p>（南島原市） 農業・有明海を1つのテーマにした観光の取組みは、広域的に連携している天草も含め、有明海とそこで獲れた魚を活用した食の観光の振興を図っていかうとしている。また、歴史的な部分や、農林漁業体験等は一つの観光素材として創り上げていきたいと考えている。 合併後に島原鉄道が廃線となったため、対応が難しい面もあるが、公共交通機関を乗り継いで観光スポットへ来ていただくという点では、島原鉄道との連携は大切に考えている。</p>
	<p>計画の中でも特に早期に進めたいものはどれか。</p>	<p>（南島原市） これまでの5年間で一番実績が上がっている農林漁業体験民宿は、最も地域の特性を活かした観光振興と考えている。修学旅行では、今年度3000人、来年度の予約は6300人で昨年度の10倍であり、軌道に乗ってきた本事業を確立し、それに食や文化を融合させつつ、島原半島を周遊して、半島一体となった事業の取組みをしていきたい。</p>

平成24年度 第1回長崎県観光審議会（主な意見）

項目	意見	事務局説明
	<p>計画は非常に具体的で、課題に対する取組みも分かりやすい。市民の観光に対する意識の醸成についても、市民みなでおもてなしという形で取組まれ、特に市内の小学生等に「もっと南島原ツアー」へ参加してもらおう取組みは素晴らしい。</p> <p>島原半島全体でも食というところが、そうめん営業課の確立など、熱心に考えているのが伝わる。南島原市が取組むことで、半島全体にいい影響が出ると思うので、他の2市と協力しつつやってほしい。</p>	-
	<p>南島原市の計画で博物館建設とあるが、いつ頃の予定か。設置にあたっては、中身の濃い立派な博物館を作ってほしい。知識の集積の場である博物館は人を呼び込めるので、そこをセンター化して、物販を行ったり、他の観光地への周遊を誘導したり等できれば観光振興に貢献できる。</p>	<p>まだ構想段階だが、長崎の教会群とキリスト教関連遺産の暫定リストに載った段階から、島原の乱の終焉の地であったにも関わらず原城の地には何もないため、合併後より検討を重ねてきた。世界遺産の登録を見据え、既存施設の活用も含めて、3～4年の間には、ということで計画している。</p>
	<p>南島原市は非常に積極的に地域の農家をまちおこしに引き込んでいる点を伸ばしてほしい。雲仙市は、自分たちだけでやろうとしてはマンパワー不足になってしまう。体験メニューの開発や地元食材の活用など、県外・海外から来た方が求めている地域の食材を地域まるごと売り込むことをやっていけば理想的な形になるのではないかと期待している。</p>	-
<h3>2. 市町観光地づくり実施計画及び重点支援地区（分野）について（雲仙市）</h3>		
	<p>観光客減少の原因分析ができていない。観光案内所があれば利便性が高まるだろうが、むしろ課題として計画に記載されていない「雲仙市の観光事業者が一体になっておらず、そのためまとまった取組みができていない」ことが原因ではないのか。本気で民間・行政が一体となって取組むという点を何とかする必要があるのではないかと。</p>	<p>（雲仙市） 平成17年に合併して7年、小浜地区は観光、それ以外は一次産業の町であり、今まで雲仙、小浜の各観光協会それぞれ独自に歩んできたこともあり、全体的な結びつきが足りないことも確かである。まずは、今回の計画の中で、その結びつきをつくり、一次産業まで含めたとろこできちっとやっていこうと整理したもので、観光案内所などご指摘の部分もあるかと思うが、今後一体となって取り組むことをやっていきたい。</p>

平成24年度 第1回長崎県観光審議会（主な意見）

項目	意見	事務局説明
	<p>雲仙遺産について、具体的な運用と、財政的な措置を分かる範囲で教えてほしい。また、愛野展望台の観光インフォメーション設置について、必要とは思いますが、近くに千々石展望台がある点についてどう考えているのか。</p>	<p>（雲仙市） 雲仙遺産の認定については、最初の国立公園やキリシタン弾圧の島等、歴史に深い関わりのある様々な観光資源が点在しているにも関わらず、よく知られていないことから、外に向けて発信する手法として、看板、幕の設置や、最終的には検定試験を行い、ファンを増やしていくという考えである。 愛野展望台の観光案内所設置は、「愛の聖地」というテーマからきたものであり、その点で愛野展望台が好ましいと考えた。また、愛野町は市の入口にあたるため、その点でも適所ではないかということで商工会が中心になりながら取組んでいる。</p>
	<p>島原そうめんについて、市内に何百軒とある店の中で、20軒しか参加していない。一般市民や個人事業者の声を聞き、潤わせることがひいては人が集まることに繋がるのではないかと。長崎市のように、食推進室を作り、情報を共有化して、一般の飲食店にも、県で行っている食king王国に参加してもらえよう、呼びかけてくれるような行政のスタンスをとっていただければ、いいものができるのではないかと。思う。</p>	-
	<p>観光インフォメーションセンターの場所について、所有者は分からないが、愛野展望台よりも愛野方面、国見方面それぞれへ行く観光客を網羅できる愛野の鐘のようなモニュメントがある広場が良いのではないかと。</p>	<p>（雲仙市） 本日の指摘を踏まえ再度検討していきたい。</p>
	<p>課題の1つに、「観光関係団体等の資金不足及びマンパワー不足」が挙げられているが、これはどの地域でも同様であり、そこを島原半島としてどう工夫するのかという意識が不足している。小浜温泉では年々旅館が減っているが、個人客への対応など、早くに課題に取り組んでいるところは逆に伸びている。こうした事業者の声を行政に直接伝える機会が無いことが、一番の雲仙市の問題点だと思う。</p>	-

平成24年度 第1回長崎県観光審議会（主な意見）

項目	意見	事務局説明
	<p>今回は島原半島の2つの市から計画が出ているが、行政範囲は観光客にとっては全く関係ないので、（今回計画が出されていない）島原市も一緒になって、島原半島全体での取組みが必要ではないか。3市が一緒に島原半島全体を盛り上げ、いずれかの市を訪れた方が他の市へ足を延ばしていただくという絵を描くことが実効性が高いと思うので、是非計画の実行段階においては留意してほしい。</p>	<p>島原市についても現在、計画を策定している。島原半島全体として観光振興に取り組むため組織された島原半島観光連盟も年々強化され、現在は「がんばらば長崎」地域づくり支援事業において県から3年間で1億円の支援を受け、これまで3市が個々に取り組んでいたものをまとめる方向へ向かっている状況である。今回はそうした取組みを行いつつ、それぞれの市で独自に取り組む計画について説明をさせていただいたものである。</p>
<p>3. 長崎県観光振興基本計画の実施状況（平成23年度分）について</p> <p>平成24年度の県観光振興施策について</p>		
	<p>来崎するにあたり、事前にガイドブック等を見たり、宿泊した長崎市内のホテルのパンフレットを見たが、今回の2市の情報が少ない。個人旅行の際には、現地で情報収集することが多いが、長崎市を起点にどういった所に行けるのか2次交通も含めて、少なくとも長崎市内のホテルには情報（パンフレット等）を置いてほしい。</p>	-
	<p>長崎さるくは成功事例として全国から注目されているが、これを長崎県としてやっていくことはできないか。長崎さるくで市民の活性化が始まり、6年かかって定着してきている。例えば、南島原さるく等、計画に載っているものをさるくコースで作り、これから雲仙、小浜でも一つにまとめた企画として取り組めれば一体感もあり、よいのではないかと思う。</p>	-

平成24年度 第1回長崎県観光審議会（主な意見）

項目	意見	事務局説明
	<p>離島めぐりツアーについて、短時間で出航するのか、宿泊を伴うものもあるのか。港に土産品店等を完備しているのか。また、既存の航路会社との提携はあるのか。</p>	<p>ツアーは、福岡から壱岐・対馬へ船を使って入り、長崎へ行き、そこから五島へ渡る船を使うパターン、或いは飛行機(ORC)を使うなど様々なパターンがある。滞在時間については、2泊3日又は3泊4日で3島を周るパターンが主であり、五島宿泊、壱岐宿泊など様々なパターンがある。 また、地元の観光協議会を中心に、港での受入でおもてなし等の取組みを行っており、ターミナルにある土産品店についても消費拡大に繋がっていると考えている。地元の船舶会社やORCと連携しながら取組みを進めている。</p>
	<p>ハ - モニ - クル - ズと上海航路の現状について教えてほしい。</p>	<p>ハーモニークルーズは、クラブハーモニー（3万t弱）の船で韓国 - 日本間を運行しており、今年は長崎に30回程来ている。非常に大事なクルーズと考えており、来年も今年並みかそれ以上の入港をしてもらえると感触を得ている。上海航路については、現在尖閣諸島の問題の影響を受け、10月の時点で年内の運休を決めており、年明け以降についてはできるだけ早く状況が改善することを期待しつつ状況を見守っている。</p>
	<p>ハーモニークルーズについて、日本人の利用状況は。</p>	<p>現在は行っていないかもしれないが、今年の事業計画を立てた時点では、大阪に寄港し、日本人を乗船させるということをやっていた。但し、集客が厳しいという話もあり、現在は大阪での日本人集客に力を入れているとは聞いていない。メインはあくまでも韓国人だが、乗船率を上げるためにも、長崎も含めて寄港地から日本人の乗客を増やすということも取り組んでいきたい。</p>
	<p>長崎において、クルーズ船を下船後、両替できる場所が少なく、分かりづらいという問題点がある。また、親孝行としてクルーズで来られた方の観光コースの整備状況を教えてほしい。</p>	<p>ドルの両替についてはターミナルで対応できるが、中国の元については、民間で対応できる所が無い状況。キャッシュカード等で両替できる機能もあるので、そうした所についてはこれから周知をしていかなければならないと考えている。観光コースについては、主に長崎市内周遊コース、ハウステンボスや雲仙まで足を延ばすコース等のツアーが選択されているが、欧米系の船では個人で周る方も多く、地方からのクルーズでも最近は個人で周る方が増えてきている。</p>

平成24年度 第1回長崎県観光審議会（主な意見）

項目	意見	事務局説明
	クルーズ下船後の周遊について、車椅子を使用される方などは、民間の輸送会社を利用されるのか。	車椅子を利用される方の多くは貸切りバスを利用され、下船し団体で移動する際に協力しあって乗車いただいているというケースが多いが、中にはタクシーで個別に観光される方もいらっしゃる。
	世界遺産の登録については、2014年度を目指しているが、盛り上がりを感じられない。	当初目指していた2014年度は難しい状況になっており、信徒発見150周年である2015年度（平成27年度）登録を目指している。その前提として来年7月に文化庁の文化審議会国内1件の選定に入ることが重要であり、国からは長崎がフロントランナーと言われ、可能性は高いと思われるが、そのためにも地元の盛り上がりが必要ではない。平成19年度に暫定登録されてから5年が経過したが世界遺産の登録には6年以上時間がかかるため、これからの半年間の盛り上がりは重要であり、行政だけでなく、各団体も自らの問題として取り組むため総決起大会を開催し、本年10月末に県民会議を立ち上げ、民間団体が中心となって盛り上げようと取り組んでいる。
	世界遺産の登録について、海外の専門家会議の中身はどうだったか。	11月に開催した専門家会議（国際会議）では、資産の内容について海外からの評価は高いが、ユネスコ独特のスタンダードに沿った価値証明や保護措置等の専門的技術的な事務作業をしっかりとやる必要がある。長崎の場合は非常に抽象的で、県内全域にある12個以上の資産を関連付けて250年間を説明しなければならない難しさはあるが、熟度は高く、ある程度完全に近いところまで来ていると思う。あとは、PRや機運の醸成等の盛り上がりが必要であり、この点では海外の専門家も同じ認識だと考えている。
	食を活用した観光振興において、新しいものもいいが、各地域にある当たり前に食べられているもので、観光振興の起爆剤になるものがまだまだたくさんあると思う。既存の食のイベントもあるが、もう一度、「田舎らしさ」を見直すことを観光の大きなテーマの一つとしてもよいと思うので、田舎は田舎らしく頑張りたい。	-

平成24年度 第1回長崎県観光審議会（主な意見）

項目	意見	事務局説明
	<p>去年、北京と河北省の大学生に対して、主な観光ポイントを例示し、長崎からイメージするものを選ぶアンケート調査（サンプル数が大体400弱）を行ったところ、断トツに多いのは原爆だった。長崎が世界から認知されているのは、やはり原爆ではないかと思う。長崎の地名自体は認知度が高いので、平和と組み合わせて中国からの誘致を長期的なスパンで考えた方がよいのではないか。中国は南北で文化の違いもあるので、そういった点もきめ細かく考慮しながら戦略を立てられたらいいと思う。</p>	
	<p>再来年パナマ運河が拡大すると世界最大の船がアジアに寄港することになるとされる。中国に限らず、海外からのクルーズを考えた場合に、まだ日本では大型船が入港できない港が多いが、濟州島には大型船受入れ可能なターミナルやロッテ免税店への送迎バスも整備されており、こうした取組みを念頭に入れておいたほうがいいと思う。</p>	